

# 保育計画成果報告書

○タイトル（保育計画）

「絵本プロジェクト」

○主な助成備品

絵本 400 冊以上、貸出用バック、絵本管理用品等

## 1. 保育計画策定の目的

「絵本に溢れた保育園にしたい」そんな思いからこの「絵本プロジェクト」の企画は始まりました。

作家の柳田邦男は自身のコラムの中で『授乳中に携帯に熱中しているのはネグレクト（育児放棄）に等しい』と記しています。これは、“授乳”が生命維持を目的とした栄養補充だけでなく、「授乳中の“子と親とのやり取り”が、愛着形成の構築に欠かせないものであり、子どもの“人として”の成長において多大な影響を与え、健全な育ちを阻害している」と指摘したものだと考えています。

授乳の際、母親は子どもを（母乳如何に関わらず）胸に抱き、温もりを感じつつ、乳を飲みながら一生懸命に見つめてくる子どもに「おなかすいたね〜」「おいしい？」と優しく語りかける。子どもも、途中で飲むのをやめてみて、お母さんの反応を待ってみる。すると「ん？ どうしたの？」と声をかけられ、身体を優しく揺らされ、お母さんの「大丈夫、あなたのことは見ているよ」という反応に、安心してまた飲み始める…

授乳は一見、単純な食事の一つに見えるかもしれないが、親子の間には 計り知れない愛情のやりとりが溢れています。

人間同士のコミュニケーション形態が大きく変化し、直接的なやりとりが希薄になる一方で、情報過多に伴い知識ばかりが増える事で「こうしないといけない」「何を信じれば良いのか解らない」と元来からある“子育てをする親の葛藤”を増加させているように感じます。そんな中、時代に関係なく“絵本の読み聞かせ”には、授乳同様に“読んでほしい子ども”と“読み手である大人”との間に沢山の“愛情のやりとり”が溢れていると感じています。絵本を一方的に“ただ読む”のではなく、子どもの様子や反応をみながら、声のトーンを変えてみたり、絵本を動かしてみたり…そんな読み手の工夫や心地よさから、子どもは安心感を得て、絵本や人の語り（話し）を好きになっていく…。

このプロジェクトを通じ、絵本が子ども達の身近にあることで、絵本に触れる機会が増え、絵本を通じた“相手を思いながら交わされるやり取り”で、「親と子」の関係がより深いものになり、子ども達が感情豊かに育つことを活動のねらいとして設定しました。

## 2. 具体的な実施内容

“子ども達の身近に絵本がある”を目的に「絵本プロジェクト」では3つの柱（本棚）を掲げ実施しました。

### 1つ目の柱は『“私の1冊”が見つかる本棚』です。

これは保育士目線で5領域を意識した絵本選びを実施し、子どもや保護者が「私この本すき！」と大好きな1冊をみつけられるような本棚作りを目指しました。

- **保育士目線での本選び。**

自分が読んでいて気持ちが良い、伝えやすい、惹きつけやすい、色彩や展開が面白いなどを中心に400冊以上の本や図鑑などを選びました。

- **絵本陳列の工夫。**

「好きかも」と想えた1冊を更に広げやすくするために、年齢別にするだけでなく同じようなジャンル、作者、出版社、を並べる工夫をしました。

### 2つ目の柱は『“この中から1冊”が想える本棚』です。

普段「絵本を買う」機会はなかなかありません。そこで、かえて保育園の絵本の貸し出し活動を考え、借りることで家にも絵本が置かれる、読まれる機会が増え、絵本が常に子どもの身近にすることを目指しました。

- **絵本貸し出しの実施。**

数に限りがあり、保育活動で使う事も考慮し、週末のみの貸し出しを実施しました。  
\*本来はいつでも借りれるようにしたかったのですが…これからの課題です。

- **絵本の紹介コーナーの実施。**

月替わりで保育士のオススメ絵本紹介（園内公開）や、園長のオススメ絵本（HP上の公開）を提示し、親に少しでも興味を持ってもらう事をも目的にと実施しました。

### 3つ目の柱は『“自信の1冊”に出会える本棚』です。

どんなに良い絵本でも、読み手によって世界観は大きく変わってしまいます。良い絵本をより輝かせるために、当園では“読み聞かせ”にも力をいれることを目的としました。

- **保育活動での絵本を使う機会の増加。**

毎日、1冊1回とは言わず、頻繁に読む機会を意図的に増やしました。また行事でも絵本に絡めた活動が増えた事で、繋がりのある保育活動が実施されました。

- **読み聞かせ講習会の実施**

年度内に技術向上を目的に、講師招いた勉強会の実施を予定でいしましたが、講師の都合がつかず平成28年度8月に実施することとなりました。  
そのために未実施となりました。

### 3. その成果と評価

かえで保育園における基本情報及び以下データ情報。

施設概要	平成 26 年 4 月開園 定員 75 名 現員 83 名 (平成 27 年度末) 鉄骨 2 階建て 1 階 (0, 1 歳児) 2 階 (2~5 歳児)
クラス別児童数	0 歳児 9 名 1 歳児 18 名 2 歳児 18 名 3 歳児 18 名 4 歳児 11 名 5 歳児 9 名 (4、5 歳児は合同保育を実施)
調査期間及び対象	平成 26 年 4 月 1 日~平成 27 年 2 月 29 日 (3 月は報告の為除く) 対象児童：全児童 83 名

表 1

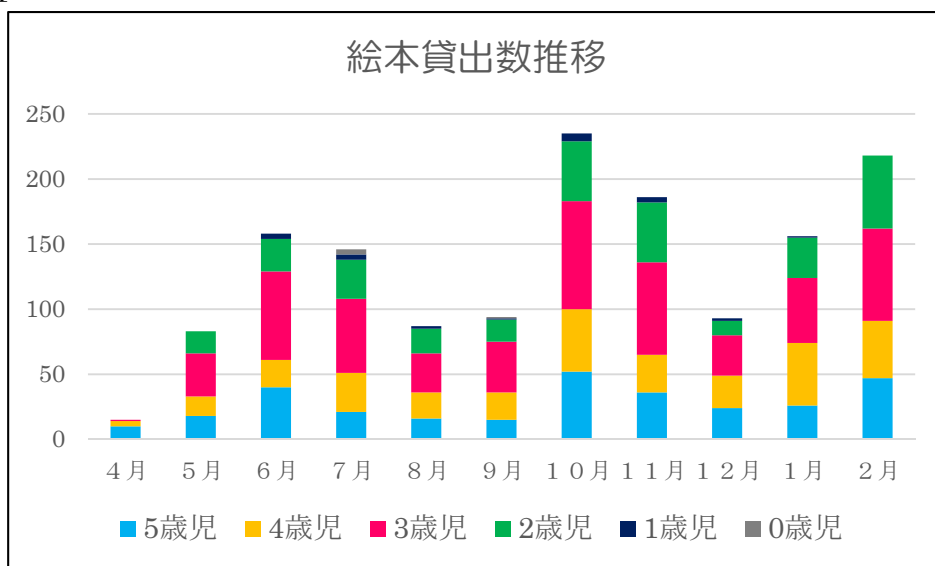


表 1 は年間の絵本貸し出し数の推移を示したものです。年間の貸し出し総数は、1471 冊に上りました。推移としては、夏場に絵本の貸し出し数が減少しているのは 9 月に運動会があり、運動的な活動が増えたことで文化的な活動が減少し、保育活動においてもゆっくりと絵本を読む機会が減少したことが影響していると考えます。そのため、運動会終了後、生活発表会（文化的発表会）に、園全体の雰囲気は文化的なものに移行していくと共に貸し出し数が増加しています。12 月~1 月にかけて貸し出し数が減少していることについては、年末・正月休みによる貸し出し期間の減少（年末は貸し出しを実施せず）が影響していると考えます。

表 2

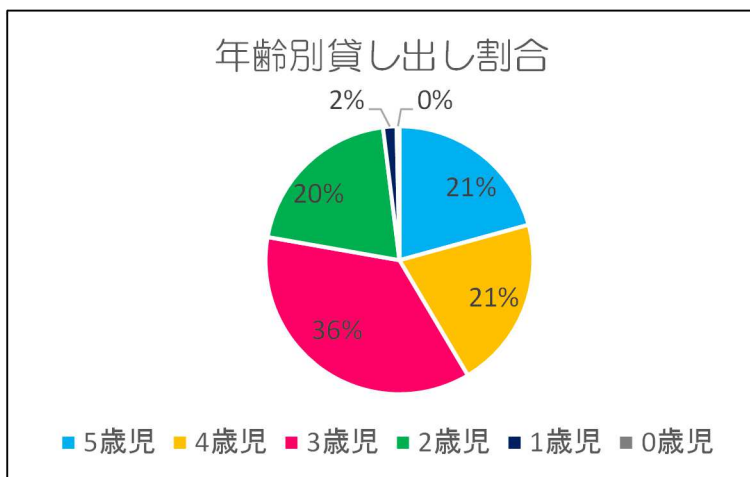


表 2 は貸し出し数を年齢別に割合で示したものです。年齢別に見ると 3 歳児が最も多く、0 歳児、1 歳児が、殆ど貸し出しが無い状態でした。「絵本を借りたことがある児童」をクラス毎の割合で比較すると、0 歳児 22%、1 歳児 17%、2 歳児 83%、3 歳児 94%、4 歳児 100%、5 歳児 89%となりました。これは、0、1 歳児の保育室が 1 階にあり、本棚は 2 階にあるため、動線として貸し出しの為に「2 階に上がるという」手間が入ったことで、貸し出し数に影響したと考えました。また、0、1 歳児については、子どもの発達として「口にも物を入れて確認をする」、「破りたくなる」等の行動があるため、本の破損を考え借りることを躊躇している可能性も感じられ絵本の貸し出しの減少につながったと考えます。

3 歳児の貸し出しが最も多いことは、このクラスの読み聞かせが非常に工夫されていたことにあると考えられます。読み聞かせをする際は“活動と活動の合間のつなぎ”で読むのではなく、毎日同じ時間に“絵本を読む時間”として集中しやすい状況で活動が設定されること。さらにその時間が一日の中に何回も設定されていること。そして何よりも、担任保育士が、絵本が好きで表情豊かに読むことで、子ども達が絵本に興味を持ち、さらにそれが絵本を借りることにつながっていると推察しました。

以上のことから、園全体や保育活動の雰囲気そして身近にいる保育士の言動が子どもの興味や活動に大きく影響していると考えました。それはまさしく、冒頭に触れた“授乳”の意味合いそのものであると考えます。

絵本プロジェクトの企画としては、年間を通じて貸し出し数が増えた事、保育活動の中に絵本を介した活動が増えた事などから、「子ども達の身近に絵本がある」という目的は十分に達成できたと考えます。

#### 4. 今後の課題と展望

今、プロジェクトの最大の課題は、やはり読み手の技術の向上であると考えます。技術向上を目的とした、勉強会の実施が未実施のままであり、業務過多に伴い、実際に自分たちの読み方の振り返りもできていないのが現状です。

今後は、読み聞かせの向上を目的とした取り組みを行いたいと考えます。